

ナカムラガハ 中村川 金城三河考に犀川の古名を中村川とするは、惣國風土記に見える中村川を當てたものであり、而して惣國風土記が偽撰である上は、毫も信ずることができぬ。但し手取川から引く用水中に、中村用水のあることは、それとは別問題である。

ナカムラキユウエツ 中村久越 山城國八幡の社人。號は貞齋。元和中前田利常に召されて、合力米二十石・銀子三百目を賜ひ、侯の在國中は常に下りて御前御用の取次を事とし、又祐筆の事にも當つた。侯薨去の翌年歸休して延寶五年歿。子久太郎祿を襲いで久入といひ、元祿十三年九月には久入から、その子源六郎にも亦藩侯在國中御機嫌を奉伺せしめたいと出願してゐる。

ナカムラキユウベ 中村久兵衛 刑部家正の二子次郎兵衛から五代の孫。初名小十郎。享保十八年幼少で父勤左衛門の遺知三の一を受け、元文五年本知三百石に復し、大小將を経て小拂奉行に任じたが、同役鈴木萬兵衛の私曲に座して、寶曆四年二月廿七日改易せられた。

ナカムラクザエモン 中村九左衛門 助左衛門の二子。元祿六年加賀藩の御歩として六十俵を受け、七年大聖寺侯に仕へて三十俵十人扶持金廿五兩を得、新番並に任じ、寶永七年新知百石を受けて大小將に班し、享保九年五十石を加へたが、十三年金澤に歸り、先知百五十石を得、組外に列し、同年四月七日四十六歳を以て歿。孫猪右衛門守福の時家斷絶した。

ナカムラクハチロウ 中村九八郎 祖父典左衛門は柴田勝家に仕へ、天正十一年北庄城

陥落の際自刃し、父も亦與左衛門といふた。九八郎は前田利家に来仕し、百八十石を受け、利長の豊前巖石城攻撃に従うて戦死した。子孫世々藩に仕へる。

ナカムラゴウ 中村郷 石川郡の古郷名。和名抄に奈加無良と訓む。後世中村庄・中村郷があるが、固より區域に變遷がある。

ナカムラゴウ 中村郷 藩政時代に於ける中村郷は、打木・八田・八田中・八田新屋・福増・下福増・中新保・宮永・宮永新・宮永市・五歩市・相木・徳丸・倉光・三浦・二口・平松・坊丸・倉部・劍崎・乙丸・館・菅波・來同・明法島・藤・木の二十六ヶ村を含んで居た。

ナカムラシゲハル 中村重晴 通稱六丞。實は脇田兵部重季の四子で、中村刑部家正に養はれたもの。寛永の初前田利常に仕へて二百五十石を受け、萬治中二百五十石を加へて大小將番頭と成り、延寶元年歿した。

ナカムラシチエモン 中村七右衛門 父長兵衛は浪人であつた。七右衛門寛永十四年前田光高の小々將となり、二百五十石を領し、十八年大小將、寛文元年御馬廻に班し、十一年割場奉行に任じ、延寶八年歿した。その嫡系は六代平次兵衛守望、天保六年自害して斷絶した。

ナカムラシヤ 中村社 江沼郡大聖寺にあつた神社。爰戀紀聞に、『昔了悟屋敷・法華坊へ續きて中村領なり。云々。今吉田氏屋敷、中村の庄屋跡といふ。辰己の方に宮あり。何神とも知るものなかりしを、敷地天神の社務八幡の宮なりといへり。日本惣鹿子には、江沼郡中村社熊野權現とあり。今も上福田の者、法華坊を中村といふ。』とある。

ナカムラジュンシロウ 中村順二郎 初名は順之助、榮齋、心華又は順了と號した。文久三年正月、加賀藩の御書物出納方を命ぜられ、同年六月明倫堂御書物出納方となり、九月海防の爲に越中東岩瀬詰となつたが、元治元年正月本役に復し、慶應二年六月明倫堂訓導格となり、明治元年越後戦役に従ひ、二年明倫堂助教加人を命ぜられた。廢藩の後、八年九月前田利嗣の漢學教師を賜せられ、爾後東京に赴いて、その職に従うたが、晩年禪門に入り、十五年七月を以て歿した。

ナカムラシヨウ 中村庄 石川郡に在つた。和名抄中村郷の遺である。應仁二年十月の祇陀寺文書に、『加賀國河内庄祇陀寺領中村庄久武保、村井之内、並成丸之内、長島之内田地之事。』とあり、又親元日記別録には、『寶藏重祐(文明十三年)花山院家領加州中村庄代官職被仰付候云々。』と見える。後世では村井・成・長島皆山島郷に屬し、中村郷は山島郷に隣接してゐる。

ナカムラシヨウハク 中村正白 又正伯に作る。もと大坂の人で小兒科の醫である。享保十一年三月召抱へられ、大坂着米三百俵を受け、後金澤に移り、延享四年五月新知四百五十石を領し、寶曆九年職を辭し、四年六十五歳を以て歿した。正白諱は忠直、號は白峰又は玉江。前田重靖の世子であつた時、屢東邸の内宴に侍し、教に應じて賦上したものの妙くない。

ナカムラシヨウザエモン 中村新五左衛門 初めて前田利家に仕へて百五十石を領した。子孫相繼いで藩に仕へる。

ナカムラスケザエモン 中村助左衛門 七

右衛門の弟。寛永十七年與力となり、寛文三年定番御馬廻に召出されて百五十石を領し、五年改作奉行に任じ、元祿九年免ぜられ、十一年歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

ナカムラセイ 中村齊 通稱彌三郎。五百木・新兵衛三百左衛門・萬右衛門。寶曆三年父五兵衛尙正の遺知六百石を襲いで大小將となり、六年二月表小將、同年十二月與小將、明和五年與小將番頭より漸く進んで定番頭並となり、前侯前田重政の御用部屋に列し、安永六年祿二百石を加へられたが、九年二月八日金谷御殿に於いて高田善藏の爲に刺殺せられた。時に年四十九。法によつて家祿邸宅を沒收せられたが、後天明六年正月廿五日特に遺跡を復し、中村才記の二子舞四郎(後善十郎)に新知三百石を與へられた。↓タカタタネノブ 高田種慶。

ナカムラセンアン 中村俊安 正白の子、醫を業とした。延享四年二十人扶持を受け、寶曆四年父の遺知の内二百五十石を領し、寶曆八年歿。俊安、延年と號して詩を能くした。

ナカムラセンアン 中村俊安 初め文安。正白與孝の子。藩の醫師として初め十人扶持を受け、寛政十年十人扶持を増し、文化元年新知百五十石を受け、天保三年歿した。

ナカムラソウスケ 中村宗助 越前府中に於いて初めて前田利長に仕へ、祿加増ともに五百四十俵に至つた。子孫相繼いで藩に仕へる。